

## オーストラリア連邦の基礎データ

- 1 面積：769万2,024平方キロメートル
- 2 人口：約2,405万人（2016年3月）
- 3 首都：キャンベラ(人口約39.3万人)
- 4 民族：アングロサクソン系等欧州系が中心  
 その他に中東系、アジア系、先住民など
- 5 公用語：英語
- 6 宗教：キリスト教61% 無宗教22%(2011年)
- 7 略史：1770年 探検家クックが上陸、英国領有宣言
  - 1788年 英国人による入植開始
  - 1901年 オーストラリア連邦成立
  - 1902年 女性参政権獲得（連邦政府）
  - 1957年 日豪通商協定締結
  - 1966年 初の女性大臣誕生
  - 1974年 日豪文化協定
  - 1980年 日豪ワーキングホリデー制度発足
  - 1986年 オーストラリア法制定（英国からの独立と主権の獲得）  
 雇用機会均等法成立
  - 1989年 初の女性首相誕生
  - 1999年 共和制移行を問う国民投票を実施（立憲君主制を継続）
- 8 文化・人的交流
  - ・オーストラリアの自治体と姉妹都市関係にある日本の自治体：108
  - ・日本語：すべての生徒・学生の学習環境を整えるべき4つのアジア言語の1つ  
 （現在約29万人が学習中）
- 9 在留邦人数：89,133人（2015年10月1日現在）




(参照) 外務省ホームページ  
 自治体国際化協会シドニー事務所「オーストラリアにおけるジェンダー・ギャップ政策」2013年

## オーストラリア事情について

- 訪問日 2016年10月26日(水)
- 説明者 上坊 勝則さん(所長)
- 視察先 一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所
- 担当 中庭、小島、小野瀬、小沼、土屋、寺内、藤澤、松山

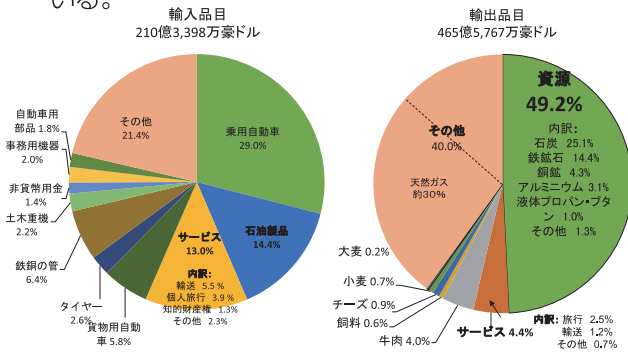
### 1 成長を続けるオーストラリアの経済社会

経済成長率（GDP）は過去10年間約3%あり、マイナス成長を経て1%成長の日本と比べると勢いのある社会である。一人当たりのGDPは世界5位、日本は27位である。物価の上昇とともに

給与も上がる1980年代の日本に似ているという。人件費が高く最低賃金17.7豪ドル（約1,400円）であり、スーパーではセルフレジを増やし、飲み物などは箱ごと並べるなど人件費抑制の努力をしている。

## 2 オーストラリアの貿易

石炭・鉄鉱石や天然ガスなどの天然資源に恵まれているため、天然資源を輸出し外貨を稼いでサービス産業を発展させ、豊かな経済社会となっている。

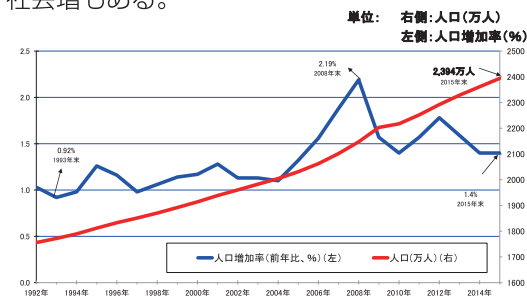


出所：豪州外務貿易省 (DFAT) "Composition of Trade" 2014-15年モノとサービス貿易  
注：DFATIは各国LNG (天然ガス) 及びエネルギー輸出統計を公表しないため、同品目は「その他」に含まれる

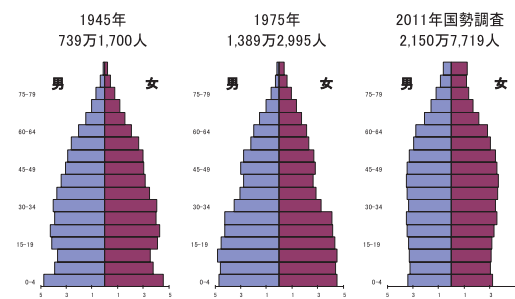
対日輸出では資源が50% 天然ガス30%、対日輸入では自動車30%、石油製品15%であり、人件費が高いため、製造業が今一つである。TOYOTA、GM、FORDが最近相次ぎ撤退している。輸出国は中国28%、日本15%、韓国6%とアジアのつながりが強い。輸入国は中国18%、アメリカ13%、日本6.2%である。

## 3 増加し続けるオーストラリア人口

65歳以上の人口比率はオーストラリア14.7%、日本26.0%、出生率はオーストラリア1.79%、日本1.42%で自然増が見られるが、移民による社会増もある。



出典：Australian Bureau of Statistics, 3101.0-Australian Demographic Stats Dec 2015. <http://www.abs.gov.au/ausstats/abs@nsf/mf/3101.0> (accessed on 13/07/16)



出所：豪州政府統計局 (ABS) 歴史的人口統計 (3105.0.65.001) 及び2011年国勢調査

(単位：人数、年齢、%)

## 4 オーストラリア社会の特徴

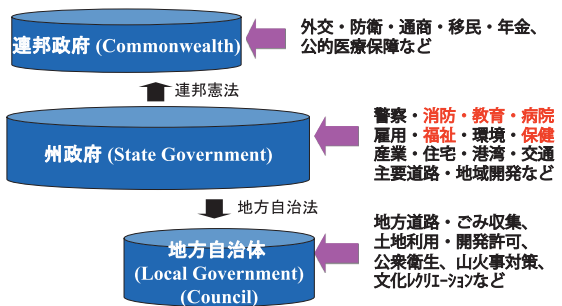
人口の大半は都市部に集中し、人口の約3割は外国生まれ、約2割が家庭で英語以外を使用している多民族多文化社会である。失業率は5.7%と低く、転職が普通の社会であり、失業しても仕事が見つけれられるということであった。労働組合が強く独特な労使関係がある。

## 5 オーストラリア地方自治体の特徴

住民との接点は固定資産税・道路・ごみ収集・上下水道・開発許可・建築許可・公園・ホール・図書館などである。住民登録がなく、住民に自治体の所属感は薄い。近年は住民の要求の高まりにより、青少年教育・高齢化対策・自然災害対策などコミュニティ行政を行うようになってきている。財源・人材・技術などの問題があり、より良いガバナンスに苦心しているという。

市長は議員の中から選ばれ、市長が都合悪ければ議員が代役を務める。議員は非常勤であり、本職と両立。議会は夕方開かれる。議員を長く続ける人は少ない。

### オーストラリアの政府構造



## 上坊所長さんのお話から

総務省から派遣されている。日本にいた時は長時間勤務だったが、オーストラリアでは早く帰って子どもの宿題を見てあげられるようになった。土日も家族で過ごす時間が増えた。半面、子どもを家に一人で置くことは虐待になる。送迎は必須、給食なしなど、子どもに対するサービスの量が増えた。

日本では常に完璧が求められ、細かい気配りが要求されるが、オーストラリアでは勤務時間内にあらかたできれば良いとされ、顧客もそれを良しとする。割り切り感のある社会である。